

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
日本工学院専門学校	昭和51年7月1日	山野 大星	〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人片柳学園	昭和25年3月1日	千葉 茂	〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	AIシステム科	令和 2(2020)年度	-	令和 5(2023)年度																													
学科の目的	従来のシステム開発技術に加えて超スマート社会に対応すべく「AI」「ビッグデータ」「IoT」の3つの技術を総合的に身に着けた次世代のITエンジニアを育成し、AIを活用して仕事をすただけでなく、山積する社会インフラ問題や智恵社会(Wisdom Network Society)に対応する人材の育成を目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	応用情報技術者 1名合格、基本情報技術者 6名合格、ITパスポート 15名合格、G検定 13名合格、AWS認定クラウドプラクティショナー 1名合格 中途退学者 3名(2.1%)																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,740 単位時間 単位	1,305 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,590 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																															
160人	125人	17人	14%																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 82人</p> <p>■就職希望者数(D) : 54人</p> <p>■就職者数(E) : 53人</p> <p>■地元就職者数(F) : 34人</p> <p>■就職率(E/D) : 98%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 64%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 65%</p> <p>■進学者数 : 24人</p> <p>■その他 : 2名</p> <p>・進学者数:24名 2名(東京通信大学 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科3年次編入) 3名(関東学院大学理工学部理工学科情報ネット・メディアコース3年次編入) 1名(麗澤大学経済学部経営学科AI/ビジネス専攻3年次編入) 1名(東京工科大学 コンピューターサイエンス学部コンピューターサイエンス学科 先進情報専攻2年次編入) 3名(東京工科大学 コンピューターサイエンス学部コンピューターサイエンス学科 人工知能専攻3年次編入) 5名(東京工科大学 コンピューターサイエンス学部コンピューターサイエンス学科 人工知能専攻2年次編入) 1名(東京工科大学 メディア学部メディア学科2年次編入) 1名(東京国際工科大学専門職大学工学部情報工科学科入学) 4名(日本工学院専門学校 ITスペシャリスト科3年次編入) 1名(日本工学院専門学校 ITスペシャリスト科2年次編入) 1名(日本工学院専門学校 情報処理科入学) 1名(日本工学院専門学校 マンガ・アニメーション科入学) ・その他 :5名</p> <p>(令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) IT・Web・通信・AI・セキュリティ業界 等(GTCテクノロジー、KADOKAWA、セントラルエンジニアリング 等)</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	http://www.nec.ac.jp/department/design/graphics/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,895 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>1,140 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,500 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>420 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>330 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位</td></tr> </table>						総授業時数	2,895 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,140 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,500 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	330 単位時間	総授業時数	- 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位	うち必修授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位
総授業時数	2,895 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,140 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,500 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	330 単位時間																																	
総授業時数	- 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位																																	
うち必修授業時数	- 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>1人</td></tr> <tr><td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>2人</td></tr> <tr><td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0人</td></tr> <tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>1人</td></tr> <tr><td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0人</td></tr> <tr><td>計</td><td>4人</td></tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	4人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。また、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。具体的には、IT関連団体との連携や学生就職先企業を中心に業界からの要請を組み入れた教育課程の編成を行っている。

委員からの指摘からIT業界の人材が不足しており、特にAIの機械学習のスキルを持つ人材の育成が急務となっていることから、Pythonのコーディングやクラウド環境での実践的な技術の習得に関する授業を充実させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育組織にある、校長が主催する校長会議のもとに設置し、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から2名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	①
関根 泰	クラウドエース株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
鈴木 正憲	旭情報サービス株式会社 東京支社 事業統括リーダー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
兼安 勉	アルファテクノロジー株式会社 技術本部 副本部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
山野 大星	日本工学院専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
児島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
岩堀 信一	日本工学院専門学校 ITカレッジ AIシステム科 主任	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 2023年3月30日 Web会議方式

第2回 2023年9月末を予定 Web会議方式

第3回 2024年3月末を予定 Web会議方式

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・ITやAIの実課題への適用

発想力と問題解決力が重要である。これには、展示会への参加、アイデアを絵にすること、基本的な技術の身に着けが必要であるとの指摘を受け、授業内容や学科イベントに反映させた。

・知識力と実践力の育成

資格取得の有用性を認識することによりモチベーションを高める必要がある。これには、基本情報技術者試験やPython、AWS、Linuxの資格を取得するとともに、実際に構築した経験を通じて得られる実践力が重要であるとの指摘を受けて、授業内容に反映させた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

国家資格等の資格試験や、IT技術・設計に関する授業・実習科目の担当教員と企業（講師）が事前打ち合わせを行い、授業・実習内容、学生の評価指標について定める。実験・実習中は担当教員または講師が評価指標に基づいて中間的な評価も行いながら専門性の高い科目において技術的な指導を行うなど連携しながら授業を運営する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
機械学習基礎	機械学習の考え方やテクニックについて最新事例を交えて学びます	株式会社グルーヴノーツ
AI系資格対策講座1	GoogleCloudの認定に必要な技術を習得します	クラウドエース株式会社
クラウドサービス実習	GoogleCloudのサービスを利用する方法を学習します	エッジテクノロジー株式会社
AI・クラウド実習	AIのクラウドサービスを利用するシステムを実装しながら学びます	エッジテクノロジー株式会社
卒業制作	在学中に学習したことを活かしてグループごとに決めたテーマに基づき、AIを活用した作品を制作します	エッジテクノロジー株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「Society5.0社会を目指し、未来（5年後）のIT教育について」	連携企業等:	有限会社リノベイトダブリュ 代表取締役 渡邊 秀樹氏
期間:	2022年9月8日	対象:	ネットワークセキュリティ科 教員およびITカレッジ教員
内容:	5年後のIT教育について考察し、カリキュラムや学習環境、指導方法等について議論をする。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「高等学校での生徒サポートの現状と必須となる教員マインドとは」	連携企業等:	AWS Academy Japan
期間:	2023年8月開催を計画	対象:	ネットワークセキュリティ科 教員およびITカレッジ教員
内容:	大成学園大成高等学校の教頭である加藤先生より、生徒サポートの現状を通して、教員が必要なマインドや指導方法について理解する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「AWS Academy 講師向けワークショップ」	連携企業等:	AWS Academy Japan
期間:	2023年8月開催を計画	対象:	AIシステム科教員およびIT カレッジ教員
内容:	AWS各コースの要点や学生に伝える際のポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論をする。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「STEAM教育、職業教育、プログラミング教育」	連携企業等:	公益財団法人方針東京都私学財団
期間:	2023年8月開催を計画	対象:	AIシステム科教員およびIT カレッジ教員
内容:	STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。

以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。

- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多く作り、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在在するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
平川 進	株式会社テレビ神奈川ecom事業局 ecom事業部	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業 等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部长	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>
公表時期: 令和5年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 AIシステム科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
3			○	数学・統計学	AIプログラミングに必要な分野に特化して、高校数学の復習と分散や標準偏差などデータ分析に必要な統計学の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	○
4	○			ビジネススキル	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・後	30	2	○			○			○	○
5	○			プレゼンテーション	プレゼンテーションソフト等を用いて、多くの人に効果的に伝える技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○		○		
6			○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めま	1・後	30	1			○		○	○		
7	○			AIリテラシー概論	人工知能の発展の歴史や現在の活用事例を知り、AIシステムで実現可能なことを考えていきます。	1・前	30	2	○			○		○		
8	○			データ分析基礎	データ分析に必要な基礎的な数学や統計学を表計算ソフト等を用いて学びます。	1・前	30	1			○	○		○		
9	○			データベース基礎	Webシステムおよびデータ分析で用いるデータベースについて、基礎技術からSQLまで学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
10	○			Web技術基礎	Webシステムおよびデータ分析で用いるデータベースについて、基礎技術からSQLまで学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
11	○			Web開発実習	JavaScriptを使用した実践的なWebシステムを開発します。	1・後	60	2			○	○		○		
12	○			クラウド技術基礎	クラウドサービスを利用したサーバーやインフラ環境の構築方法を学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
13	○			クラウドサービス実習	Google GCPやAmazon AWSなどのクラウドサービスを利用する方法を学習します。	1・後	60	2			○	○			○	○
14	○			AIプログラミング基礎	AIシステムを構築する上で必須となる各種プログラミングの基礎を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	

(工業専門課程 AIシステム科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			AIプログラミング実習	AIシステム構築に必要なとなる機械学習（教師あり学習）をプログラミングにより学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
16	○			発想法	発想力とアイデアをカタチにする方法を学び、デザイン思考を用いたアイデアソンを実施します。	1・前	15	1	○			○			○	
17	○			IoTもの作り実習	センサーやアクチュエーター等の実空間のモノゴトを扱うプログラミングを行います。	1・前	30	1			○	○		○		
18	○			情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	1・前	15	1	○			○		○		
19	○			ビジネス基礎	システム戦略や経営戦略、マネジメント手法などの基礎について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	○
20	○			コンピュータ・テクノロジー	コンピューターの基礎理論、システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
21	○			アルゴリズムとデータ構造	プログラムでデータを処理する仕組みと多様なデータの特性を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
22			○	資格対策講座1	各種検定資格の対策を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
23			○	資格対策講座2	各種検定資格の対策を行います。	1・後	30	2	○			○			○	
24			○	特別講座1	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	1・前	15	1	○			○		○		○
25			○	特別講座2	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	1・後	15	1	○			○		○		○
26			○	校外研修1	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1・前	30	1			○		○	○		○
27			○	校外研修2	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1・後	30	1			○		○	○		○
28	○			機械学習基礎	機械学習の考え方やテクニックについて最新事例を交えて学びます。	1・後	30	2			○	○			○	○
29	○			IoT活用実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。また、教師データの作成のため、センサーデバイスの使用方法を学び、データ収集を行います。	1・後	30	1			○	○			○	

(工業専門課程 AIシステム科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
30	○			AIプロデュース	AIを活用したモノゴトづくりをプロデュースするために必要なスキルとして、クリティカルシンキング・ロジカルシンキング・ディベートを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
31			○	情報系資格対策講座1	Python3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・後	60	4	○			○			○	
32			○	プロジェクト実習1	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	1・後	60	2			○	○		○	○	
33			○	AI系資格対策講座1	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	1・後	45	3	○			○		○	○	○
34			○	海外研修1	海外のAI・IoT先進地を視察し、現地の文化に触れることでグローバルな感性を身につけます。	1・後	30	1			○		○	○		
35			○	インターンシップ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	30	1			○		○	○		○
36			○	インターンシップ2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	150	5			○		○	○		○
37	○			キャリアデザイン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます	2・前	30	2	○			○		○		
38	○			キャリアデザイン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
39			○	スポーツ実習2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2・後	30	1			○		○	○		
40	○			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
41	○			AI・Web実習	AIを利用するWebシステムを実装しながら学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
42	○			AI・クラウド実習	AIのクラウドサービスを利用するシステムを実装しながら学びます	2・前	60	2			○	○			○	○
43	○			AI・IoT実習	AIを利用するIoTシステムを実装しながら学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
44	○			アイデアソン・ハッカソン演習1	地域や社会の課題を発見し解決するアイデアソンおよびハッカソンを行います。	2・前	30	2			○	○			○	

(工業専門課程 AIシステム科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
45	○			アイデアソン・ハッカソン演習2	地域や社会の課題を発見し解決するアイデアソンおよびハッカソンを行います。	2・後	30	1			○	○			○	
46	○			マーケティング	市場調査における効果的な情報収集の手段や収集した情報の分析手法を身につけます。	2・前	30	2	○			○			○	○
47			○	情報系資格対策講座2	Python3エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	90	6	○			○			○	
48			○	情報系資格対策講座3	Python3エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・後	90	6	○			○			○	
49			○	プロジェクト実習2	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	2・前	90	3			○	○			○	○
50			○	プロジェクト実習3	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	2・後	90	3			○	○			○	
51			○	AI系資格対策講座2	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	2・前	45	3	○			○			○	○
52			○	AI系資格対策講座3	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	2・後	45	3	○			○			○	○
53			○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
54			○	資格対策講座4	各種検定資格の対策を行います。	2・後	30	2	○			○			○	
55			○	特別講座3	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2・前	15	1	○			○			○	○
56			○	特別講座4	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2・後	15	1	○			○			○	○
57			○	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1			○	○			○	○
58			○	校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・後	30	1			○	○			○	○
59	○			卒業制作	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、AI活用をテーマに取り組みます。	2・後	180	6			○	○			○	○

(工業専門課程 AIシステム科)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
60	○			アジャイル開発演習	スクラムなどのアジャイル開発手法を体系的に学びながら卒業制作で実践します。	2・後	60	4			○	○			○	
61	○			AIビジネス戦略	企業の実例をケーススタディとして学び、AIを利用したビジネスモデルを創造します。	2・後	30	2	○			○			○	
62			○	海外研修2	海外のAI・IoT先進地を視察し、現地の文化に触れることでグローバルな感性を身につけます。	2・後	30	1			○		○	○		
63			○	インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2・後	150	5			○		○	○		○
合計						63	科目	135(2895) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 卒業時に必修科目1500時間(69単位)取得および選択科目を240時間(8単位)以上取得し、合計1740時間(77単位)以上取得すること		1学年の学期区分	2期
履修方法： 「情報系資格対策講座1」または「プロジェクト実習1」のどちらかを、必ず履修(合格)すること。 「情報系資格対策講座2」または「プロジェクト実習2」のどちらかを、必ず履修(合格)すること。 「情報系資格対策講座3」または「プロジェクト実習3」のどちらかを、必ず履修(合格)すること。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。